

MINGEI
The Beauty of
Everyday Things

美は
暮らしの
なかに
ある

民藝

MIN GEI



上:スリッウェア鶏文鉢 イギリス 18世紀後半/下:竹行李 陸中鳥越(岩手) 1930年代、刺子足袋 羽前庄内(山形) 1940年頃
いずれも日本民藝館蔵 Photo:Yuki Ogawa



民藝 MINGEI

美は暮らしのなかにある

[上から] 緑黒釉半分皿 因幡牛ノ戸(鳥取) 1931年頃/流描皿 河井寛次郎 京都 1927-28年頃/藍鉄絵紅茶器 濱田庄司 栃木 1935年頃/食器棚 イギリス 19世紀 いずれも日本民藝館蔵 Photo:Yuki Ogawa

料金	一般 1,700円 (1,400円)	65歳以上 1,400円 (1,100円)	大高生 800円 (600円)	中小生 500円 (300円)
----	-----------------------	--------------------------	--------------------	--------------------

公式オンラインチケット(クレジット決済、またはd払い)、セブンチケットを2月15日(木)10時より販売いたします。※上記でご購入が難しい方、アツカード等の各種割引をご利用の方は、美術館窓口で「当日券」をご購入ください。

公式オンライン
チケットサイト
<https://www.e-tix.jp/mingei-kurashi-tokyo/>



セブンチケット
<https://7ticket.jp/sp/mingei-kurashi-tokyo>



●()内は20名以上の団体料金。事前に電話でお問い合わせください。
●障害者の方は500円。ただし小中高大専門学校生の障害者の方は無料。介助者(当該障害者1名につき1名)は無料(予約不要)。
●未就学児は無料(予約不要)。
●高校生、大学生、専門学校生、65歳以上の方、各種手帳をお持ちの方は、証明できるものをご提示ください。



世田谷美術館 SETAGAYA ART MUSEUM
〒157-0075 世田谷区砧公園1-2 TEL:03-3415-6011(代表)
<https://www.setagayaartmuseum.or.jp/>
展覧会のご案内:050-5541-8600(ハローダイヤル)

交通案内
東急田園都市線「用賀」駅下車、北口から徒歩17分、または美術館行バス「美術館」●下車徒歩3分
小田急線「成城学園前」駅下車、南口から渋谷駅行バス「砧町」●下車徒歩10分
小田急線「千歳船橋」駅下車、田園調布駅行バス「美術館入口」●下車徒歩5分

●ご入館に際しては感染症予防のため手指消毒にご協力ください。館内で十分な距離を保てない場合がありますので、マスクの着用を推奨しています。●展覧会の会期および内容が、急遽変更や中止になる場合がございます。●会期中の最新情報は美術館ウェブサイト等でお知らせします。

公式オンライン・セブンチケット限定販売 宮入圭太 アートサコッシュセットチケット

販売価格:3,200円(税込) 数量限定

今、注目の染色家/アーティスト・宮入圭太さんの描きおろし作品があしらわれたサコッシュ(斜め掛けの小型バッグ)と、本展観覧券1枚がセットになったチケットです。
※美術館窓口ではご購入いただけません



サイズ(約):本体/横170×縦225mm
持ち手/幅10×長さ1150mm
素材・色:キャンバスにプリント、生成

●チケット購入時に発券されるグッズ引換券を、本展会場特設ショップ(2F)にてサコッシュとお引き換えください(会期中のみ有効)。発送には対応しておりません。●セットのサコッシュの会場販売はありません。同サイズで別デザインのサコッシュを1,800円(税込)で会場販売予定です。

イベント 講演会「暮らしのなかの民藝」
[日時] 2024年5月19日(日) 15:00~16:30(開場14:30)
[講師] 森谷美保(本展監修者・美術史家) ※手話通訳つき
[会場] 世田谷美術館 講堂 [定員] 先着140名 [参加費] 無料 ※当日14:00より講堂にて整理券を配布します

トークイベント「現代の民藝をどう捉えるか？」
[日時] 2024年6月1日(土) 15:00~16:30(開場14:30)
[登壇者] 濱田琢司(本展監修協力・関西学院大学文学部教授) テリー・エリス/北村恵子(MOGI Folk Artディレクター) ※逐次通訳、手話通訳つき
[会場] 世田谷美術館 地下創作室 [参加費] 1回100円 ※予約不要、随時受付

100円ワークショップ
ちいさなお子様から大人の方まで楽しめる工作
[日時] 会期中の毎土曜日 13:00~15:00
[会場] 世田谷美術館 地下創作室
[参加費] 1回100円 ※予約不要、随時受付
※その他イベントについては、詳細が決定次第、ウェブサイトにてお知らせします。

[次回企画展] 生涯130年 没後60年を越えて「須田圓太郎の芸術—三つのまなざし」 2024年7月13日(土)~9月8日(日)

世田谷美術館 SETAGAYA ART MUSEUM

[展覧会公式サイト] <https://mingei-kurashi.exhibit.jp/>
[展覧会公式SNS] @mingeiten X@mingeiten



約 やなぎひねよし 100年前に思想家・柳宗悦は日常生活のなかで用いられてきた手仕事の品々に美を見出し、「民衆の工藝=民藝」の考えを唱えました。日々の生活のなかにある美を慈しみ、素材や作り手に思いを寄せる、この「民藝」のコンセプトはいま改めて必要とされ、私たちの暮らしに身近なものとなりつつあります。本展では、民藝について「衣・食・住」をテーマにひも解き、暮らしで用いられてきた美しい民藝の品々約150件を展示します。また、いまに続く民藝の産地を訪ね、そこで働く作り手と、受け継がれている手仕事も紹介します。さらには、2022年夏までセレクトショップBEAMSのディレクターとして長く活躍し、現在の民藝ブームに大きな役割を果たしてきたテリー・エリス／北村恵子(MOGI Folk Artディレクター)による、現代のライフスタイルと民藝を融合したインスタレーションも見どころのひとつとなるでしょう。

第I章：1941生活展 ——柳宗悦によるライフスタイル提案

1941(昭和16)年、柳宗悦は自身が設立した日本民藝館(東京・目黒)で「生活展」を展開。民藝の品々で室内を装飾し、いまでいうテーブルコーディネートを表示しました。暮らしのなかで民藝を活かす手法を提示した、モデルルームのような展示は当時珍しく、画期的でした。第I章では実際に出品された作品を中心に、「生活展」の再現を試みて、柳が説いた暮らしの美を紹介します。



右：緑釉水注 イギリス 14世紀 日本民藝館蔵
左：日本民藝館「生活展」会場写真 1941年

第II章：暮らしのなかの民藝——美しいデザイン

柳宗悦は、陶磁、染織、木工などあらゆる工芸品のほか、絵画や家具調度など多岐にわたる品々を、日本のみならず、朝鮮半島の各所、中国や欧米などへ旅し、収集を重ねました。時代も古くは縄文時代から、柳らが民藝運動を活発化させた昭和にいたるまで幅広く、とりわけ同時代の、国内各地で作られた手仕事の日常品に着目し、それらを積極的に紹介しました。第II章では民藝の品々を「衣・食・住」に分類し、それぞれに民藝美を見出した柳の視点をひも解きます。

柳が説いた生活のなかの美、民藝とは何か、そのひろがりと今、そしてこれからを展望する展覧会です。



衣



食



住



上：刺子襦古着(部分) 江戸時代 18-19世紀 日本民藝館蔵*
下：[左から]流水に桜骨文紅型着物(部分) 首里(沖縄) 19-20世紀前半 静岡市立芹沢銈介美術館蔵/
袖ショール 青田五良 京都 1930年頃 個人蔵* / 厚司(アットシ) アイヌ(北海道) 19世紀 静岡市立芹沢銈介美術館蔵



上：スリップウェア角皿 イギリス 18世紀後半-19世紀後半 日本民藝館蔵*
下：[左から]染付羊歯文湯呑 肥前有田(佐賀) 江戸時代 18-19世紀 日本民藝館蔵/
塗分盆 江戸時代 18世紀 日本民藝館蔵 / 網袋(鶏卵入れ) 朝鮮半島 20世紀初頭 日本民藝館蔵



上：桐文行燈 江戸時代後期 個人蔵*
下：[左から]芯切鉢 京都 1920年代後半-1930年代前半 日本民藝館蔵 / (左上から時計回りに)手箒 仙台郡山(宮城) 1939年頃 日本民藝館蔵、
鹿沼箒 下野鹿沼(栃木) 1939年頃 日本民藝館蔵、手箒 信州(長野) 1939年頃 日本民藝館蔵 / 円座 朝鮮半島 1930年代 日本民藝館蔵 /
椅子 オーストリア 19世紀初頭 静岡市立芹沢銈介美術館蔵

* Photo: Yuki Ogawa

第III章：ひろがる民藝——これまでとこれから

柳宗悦の没後も民藝運動は広がりを見せました。濱田庄司、芹沢銈介、外村吉之介が1972(昭和47)年に刊行した書籍『世界の民芸』では、欧州各国、南米、アフリカなど世界各国の品々を紹介。各地の気候風土、生活に育まれたプリミティブなデザインは民藝の新たな扉を開きました。一方、民藝運動により注目を集めた日本各地の工芸の産地でも、伝統を受け継いだ新たな製品、新しい世代の職人たちが誕生しています。本展では国内5つの産地から、これまでと現在作られている民藝の品々や、そこで働く人々の「いま」を紹介します。そして、本章最後では、現在の民藝ブームの先駆者ともいえるテリー・エリス／北村恵子(MOGI Folk Artディレクター)のコレクションや、彼らが世界各地で見つけたフォークアートと現代の暮らしを融合した「これからの民藝スタイル」を、インスタレーション展示で提案します。



[左から]濱田庄司、芹沢銈介、外村吉之介「世界の民芸」朝日新聞社 1972年 個人蔵* /
人形 フニン県ワンカヨ(ペルー) 20世紀後半 静岡市立芹沢銈介美術館蔵 /
靴下 アゼルバイジャン地方(イラン) 20世紀後半 静岡市立芹沢銈介美術館蔵



各産地の製作風景
[左から]丹波布(兵庫)* / 鳥越竹細工(岩手)* / 八尾和紙(富山)*

本展特設ショップも
お楽しみ！

MOGI Folk Artディレクターの
テリー・エリスと北村恵子、
自邸の愛蔵品*